



今回の家庭菜園は…イチゴです!

性質

生育適温は18~25℃で30℃以上になると生育が抑制され、35℃以上で奇形果が発生します。果実の肥大は日中20~24℃、夜間6~10℃が適温です。

品種

けんたろう…果実は硬く糖度が高い良食味品種。収量はやや劣るが大果が多い。

宝交早生…果実は柔く酸味のバランスが良い。栽培しやすく初心者向け。

栽培のポイント

- ①ハチなどによって受粉しますが、受粉が上手くされない場合は、毛先の柔らかい毛筆などの先端を使って花の中心部に軽く撫でて受粉させます。受粉が上手くいかないと奇形果になります。奇形果があれば早めに取り除きます。
- ②保水性と排水性が良く、日当たりが良い畑に植付けをします。排水性の悪い畑は、30cm程度の高畝(たかうね)にして過湿を防ぎます。
- ③根は肥料ヤケを起こしやすいので、肥料が直接根に触れないように注意しましょう。
- ④苗は2~3年ごとに植え替えた方が大きい果実を収穫できます。

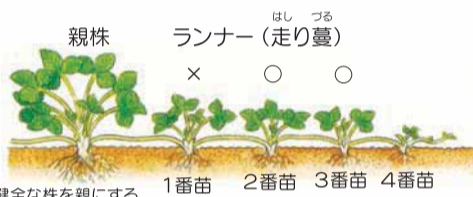
栽培方法	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月
露地						■	▲▲		
トンネル				■			▲▲		

▲=定植 ■=収穫

苗づくり

初年目は苗を購入し、それを親株として植え付けて苗(子苗)を増やす。翌年からは収穫の終わった株のうち健全なものを親株とする。

ランナー苗のとり方



健全な株を親にする 1番苗 2番苗 3番苗 4番苗
子苗の選び方は、親株に1番近い1番苗は生育が不安定なことが多いので、2番苗、3番苗の中で丈夫なものを選びましょう。1株から10~30株くらいの子苗ができます。

★(2の植えつけに関連)



片側は2~3cm、他方は短く切る

×深すぎ



葉のつけねは必ず地上に出し、深植えしないこと

健全な苗の見分け方



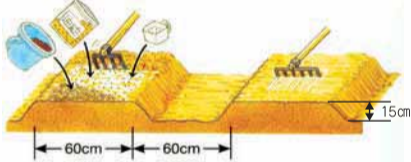
栽培方法

1 元肥入れ

植えつけの15~20日前に与える

(1㎡当たり)

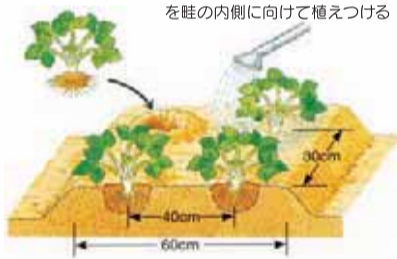
完熟堆肥 3~5kg
油粕 大さじ2杯
化成肥料 100g



肥料を耕し込んだら、きれいに畝をつくりあげておく

2 植えつけ

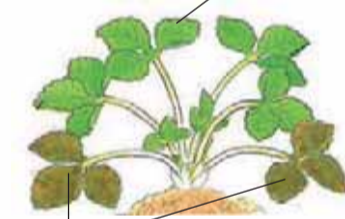
翌年、花房が通路側に向くように、★で長く切り残した親株側のランナーを畦の内側に向けて植えつける



植え終わったら、たっぷり灌水しておく

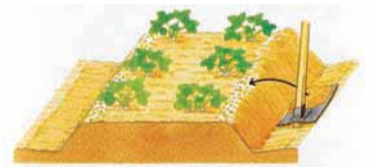
3 葉かき

新しく出た葉は残す



かき取る 植えつけの翌春、雪が溶けたら古い枯葉をクラウンの付け根からかき取る

4 追肥



葉かきが終わったら少量の追肥を株間か畦の肩に施してごく浅く起こし、水をやる

5 マルチング

ポリフィルムでマルチングすると雑草の発生が抑えられ、生育も進む



イチゴのあるところをかみそりの刃などで十文字に切り開く

切り開いたところからイチゴをのぞかせる

6 病害虫防除



腐った実や変形果は早めに取り除く

上方の葉が伸び始めたら枯れた下葉は取り除く

- 灰色かび病:主に果実が発生し、灰色のかびが密生する
- うどんこ病:葉と果実が発生する
- ハダニ:乾燥期に葉裏に発生し、葉が黄化する

7 収穫

開花して約30日で収穫が始まる



朝もぎイチゴの味は格別



たくさんとれたら自家製のジャムに

食のはなし イチゴ



イチゴは「ビタミンCの王様」といわれ、大粒のイチゴ5粒で1日分のビタミンC所要量を満たすといわれています。ビタミンCは、コラーゲンが作られるのを助け皮膚を丈夫にし、しわの予防やメラニンが作られるのを抑えシミを予防する働きがあり、肌の悩みに効果的です。

また、ウィルスや細菌に対する抵抗力もつけてくれるので、風邪の予防や回復を早めてくれます。さらに鉄分を吸収しやすくしてくれる効果もあります。しかしビタミンCは壊れやすく、体の中に溜めておくことができないので、食事が不規則なときほど意識して

しっかり摂りたいビタミンです。

イチゴはヘタをつけたまま手早く洗うのがポイントです。ヘタを取ってから洗うと水っぽくなってしまいう上に、水に長く接しているとビタミンCが流れ出てしまいます。

保存方法

イチゴをパックから取出し浅めの容器にキッチンペーパーを敷き、ヘタを下にして重ならないように並べ、しっかりラップをして冷蔵庫で保存します。

イチゴは乾燥や水分に弱く、ちょっとした衝撃でもすぐに痛んでしまうので、保存の際は注意しましょう。